

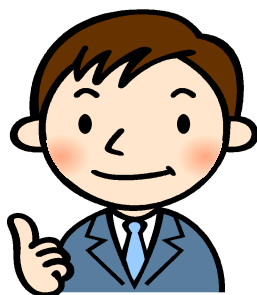
令和5年度 授業改善グランドデザイン

「学びの変革推進プラン」

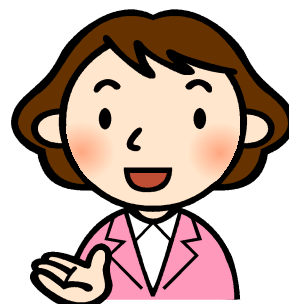
施策1の推進に向けて

全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方策

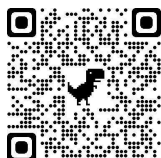
- | | | |
|---|--------------------------------|-----|
| 1 | 全国学力・学習状況調査の結果の概要 | P1 |
| 2 | 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題 | P3 |
| 3 | 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業 | P6 |
| 4 | ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して！ | P11 |
| 5 | 各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～ | P13 |



令和5年8月
福島県教育庁義務教育課



©すべてのデータを、福島県教育庁義務教育課WEBサイトからPDFでダウンロードいただけます。



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>

または

福島県教育庁義務教育課

検索

1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

調査に関する概要

実施日	令和5年4月18日(火)		
実施校数	小学校 384 校	中学校 214 校	
調査学年	小学校 6年生	中学校 3年生	
調査教科	小学校 国語、算数	中学校 国語、数学、英語	

- ※ 実施校数は、4月18日に調査を実施した数である。
- ※ 義務教育学校（前期課程・後期課程）及び特別支援学校（小学部、中学部）を含む。

校種・教科に関する調査結果の概要

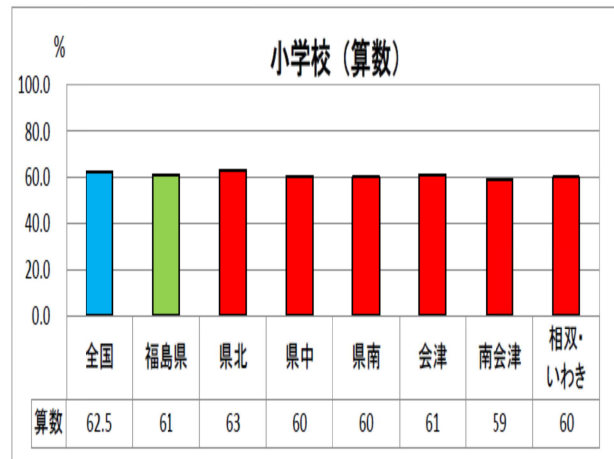
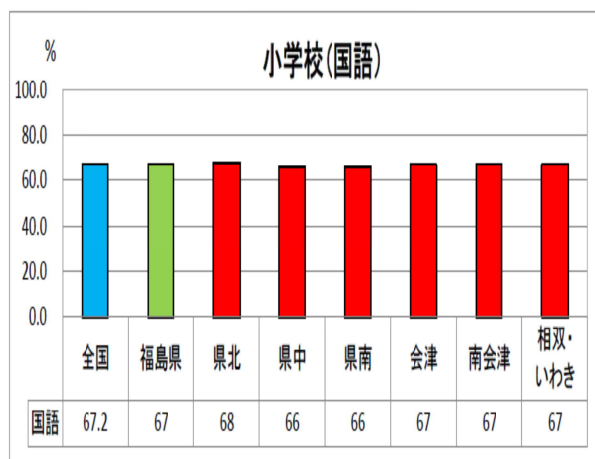
小学校	福島県集計対象児童数	福島県(公立)平均正答率	全国(公立)平均正答率	所見
国語	13,086	67	67.2	おおむね全国平均
算数	13,086	61	62.5	全国平均をやや下回っている

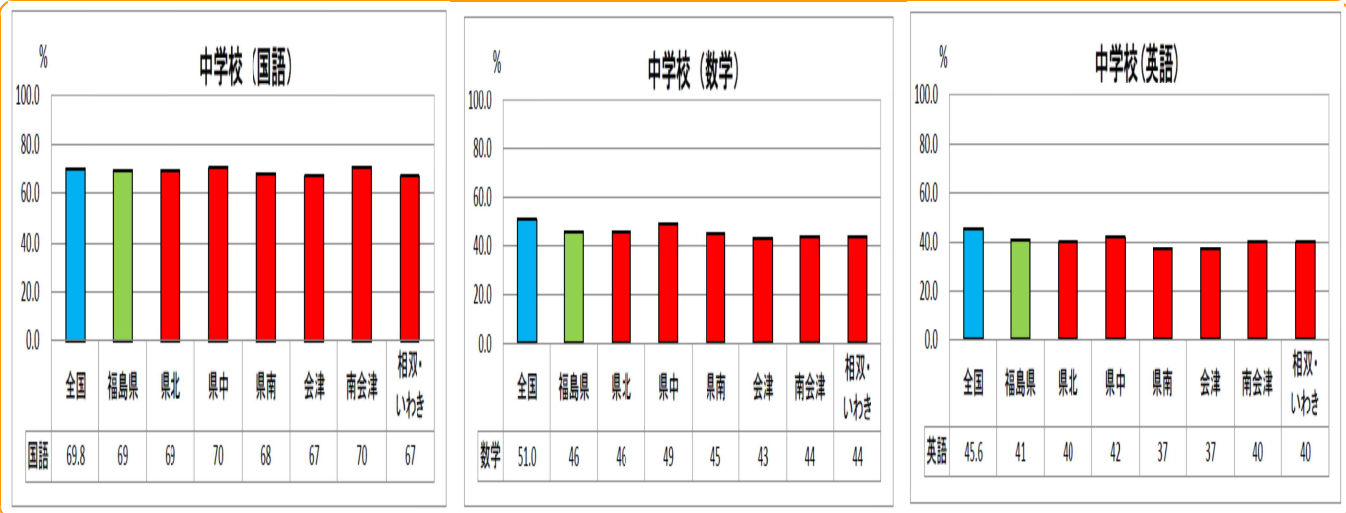
中学校	福島県集計対象生徒数	福島県(公立)平均正答率	全国(公立)平均正答率	所見
国語	13,337	69	69.8	おおむね全国平均
数学	13,343	46	51.0	全国平均を下回っている
英語	13,345	41	45.6	全国平均を下回っている

- ※ 児童生徒数は、4月18日に調査を実施した数である。
- ※ 国の公表方針及び提供資料に基づき、県の数値については整数値による公表である。
- ※ 英語は「話すこと」調査を含めない。

生活圏平均正答率の状況

- 県内の生活圏別（県北、県中、県南、会津、南会津、相双・いわきの6地域）平均正答率において、校種・教科ごとの大きなばらつきは見られない。
- それぞれの地域の成果と課題を詳細に分析するとともに、児童生徒一人一人の学びに応じた指導の充実を図る授業改善等の具体的な取組を継続していく必要がある。





児童生徒質問紙調査の結果

全国平均との比較及び福島県における経年推移から、福島県の児童生徒には次のような傾向が見られる。

- 話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答する児童生徒の割合が高く、全国平均を上回っている。
- 小学校算数の学習を「好き」「どちらかといえば好き」と回答している児童の割合は、全国平均を上回っている。一方、中学校数学の学習を「好き」「どちらかといえば好き」と回答している生徒の割合は、全国平均を下回っている。さらに、経年推移においては、小学校・中学校ともに減少傾向にある。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「先生は、わかるまで教えてくれている」と回答している児童生徒の割合が高く、全国平均を上回っている。また、経年推移においても増加傾向にある。
- 授業中にICT機器を「ほぼ毎日」または「週3日以上」使用していると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて増加している。しかし、依然として全国平均を下回っており、引き続き課題となっている。

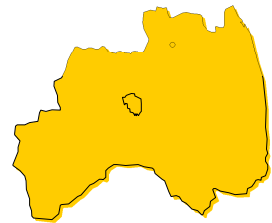
調査結果の総括(公立)

- 本年度の全国学力・学習状況調査における教科に関する調査結果は、小・中学校国語がおおむね全国平均となっている。しかし、小学校算数は全国平均をやや下回り、中学校数学及び英語は、全国平均を下回る厳しい状況が続いている。
- 質問紙調査から、「学びの変革推進プラン」に基づく授業改善が進んでいることが分かる。また、友達と話し合い、自分の考えを深め、次の学びに生かそうとする児童生徒の割合は全国平均を上回っている。しかし、授業改善が学びの質の向上に十分につながっているとは言えない。
- 今後は、各教科で育成すべき資質・能力を明確にするとともに、ICT機器を効果的に活用した学びを充実させること、さらには指導と評価の一体化を目指した授業改善に引き続き取り組んでいくことが重要である。
- 各学校においては、ふくしま学力調査の結果と合わせ、自校の結果及び児童生徒一人一人の解答状況や生活習慣等の実態を多面的に分析し、具体的な教科指導の改善や指導計画への反映を行うよう、全職員で取り組むことが重要である。

- ◎ 県教育委員会としては、各市町村教育委員会と連携を図りながら、実態に応じた対策を講じるとともに、教員に寄り添った支援をさらに充実させ、本県の未来を担う児童生徒の学力向上に取り組んでいきます。

2 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題

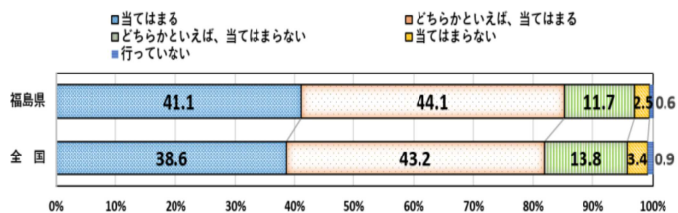
ふくしまの強み(よさ)



「学びの変革推進プラン」に基づく授業改善が進められています

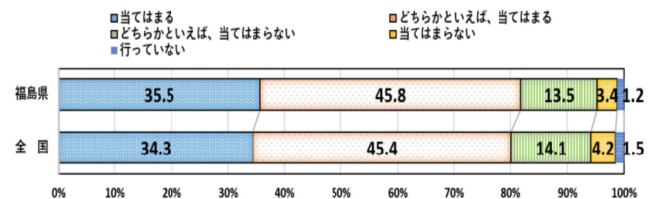
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

【小学校】



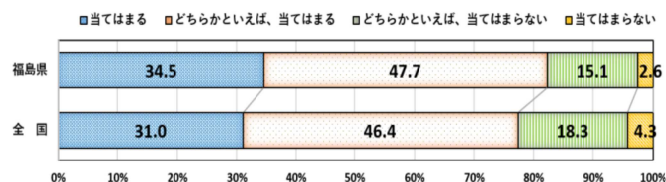
【中学校】

[児童生徒質問紙]



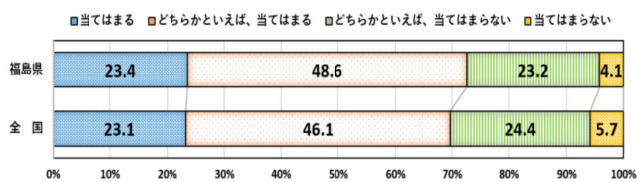
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか

【小学校】



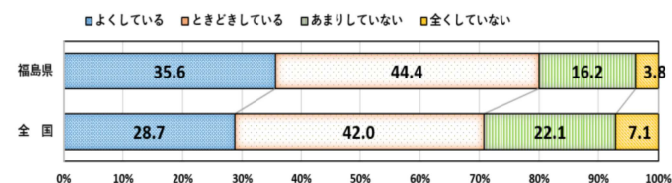
【中学校】

[児童生徒質問紙]



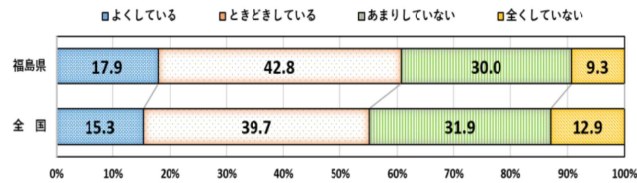
家では自分で計画を立てて勉強をしていますか

【小学校】



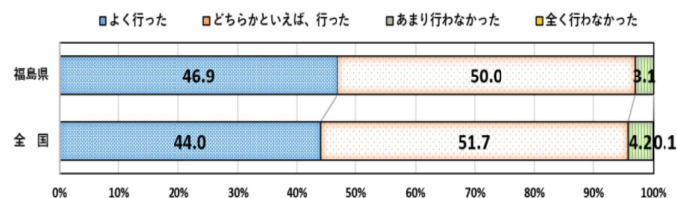
【中学校】

[児童生徒質問紙]



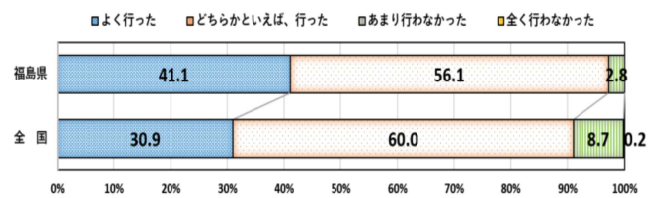
学校では家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

【小学校】



【中学校】

[学校質問紙]



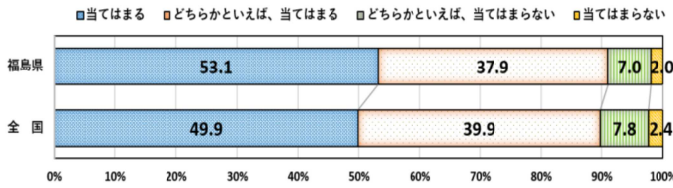
- 話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできていると肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は85.2% (全国比+3.4ポイント)、中学生は81.3% (全国比+1.6ポイント) と、ともに全国平均を上回っている。
- 学習した内容を見直し、次の学習につなげることができていると肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は82.2% (全国比+4.8ポイント)、中学生は72.0% (全国比+2.8ポイント) と、ともに全国平均を上回っている。
- 家では自分で計画を立てて勉強していると肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で80.0% (全国比+9.3ポイント)、中学校で60.7% (全国比+5.7ポイント) と、全国平均を上回っている。また、家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えていると肯定的に回答した学校の割合も、小学校は96.9% (全国比+1.2ポイント)、中学校は97.2% (全国比+6.3ポイント) とともに全国平均を上回っている。



児童生徒は、一人一人のよさを認め、学習を支援してくれる教師を信頼しています

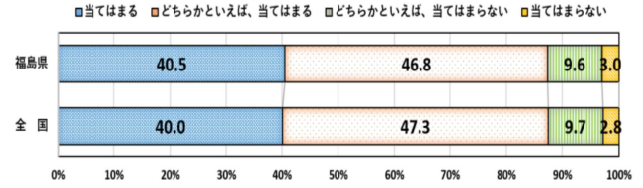
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

【小学校】



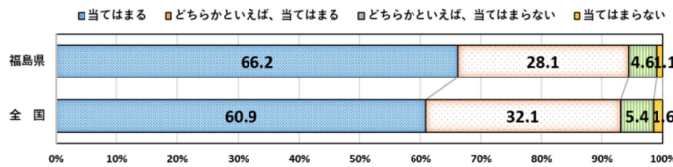
【中学校】

[児童生徒質問紙]



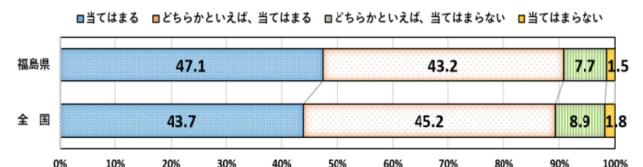
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか

【小学校】



【中学校】

[児童生徒質問紙]



- 先生が自分のよいところを認めてくれていると肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学生は91.0%（全国比+1.2ポイント）、中学生も87.3%（全国比±0ポイント）と高い。
- 授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、先生がわかるまで教えてくれていると肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学生は94.3%（全国比+1.3ポイント）、中学生は90.3%（全国比+1.4ポイント）と、ともに全国平均を上回っている。

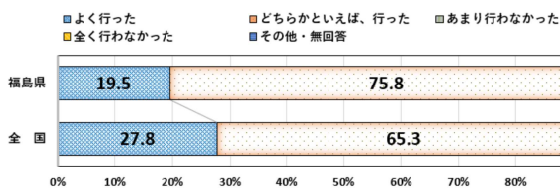
ふくしまの課題



個別最適な学び、指導と評価の一体化を目指した授業づくりが重要です

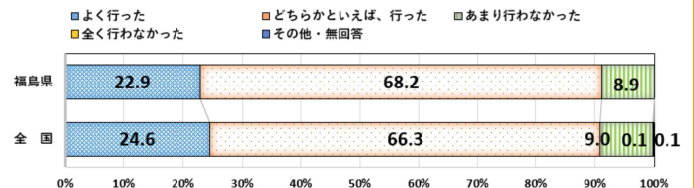
児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

【小学校】



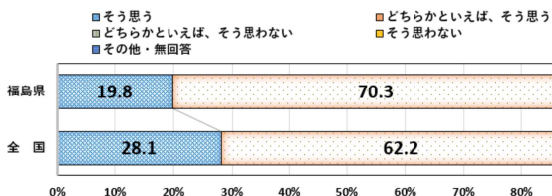
【中学校】

[学校質問紙]



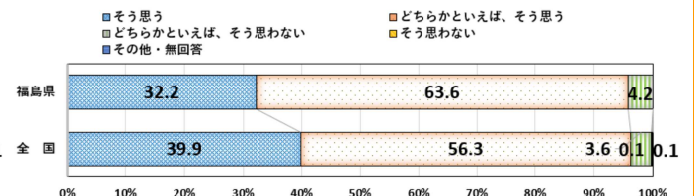
児童生徒に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか

【小学校】



【中学校】

[学校質問紙]



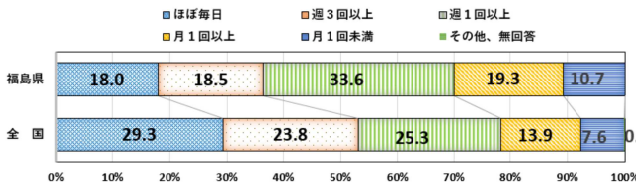
- 児童生徒一人一人に応じた学習課題や活動の工夫について、「よく行った」と回答している割合は、小学校が19.5%（全国比-8.3ポイント）、中学校が22.9%（全国比-1.7ポイント）と、ともに全国平均を下回っている。
- 学習評価の結果を指導改善や学習改善に生かすことを心がけたかについて、「そう思う」と回答している割合は、小学校が19.8%（全国比-8.3ポイント）、中学校が32.2%（全国比-7.7ポイント）と、ともに全国平均を下回っている。



協働的な学びの実現のために、ICT機器の効果的な活用が重要です

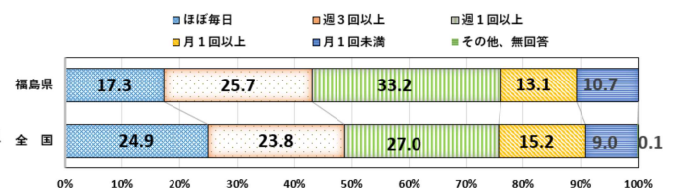
教職員と児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

【小学校】



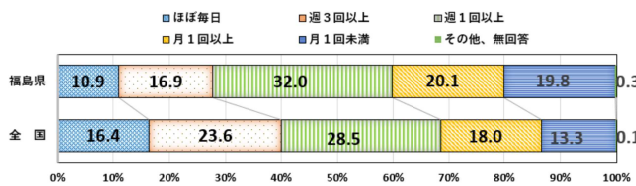
【中学校】

[学校質問紙]



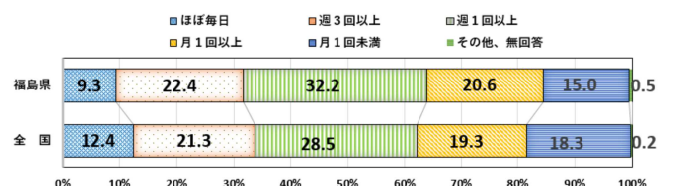
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

【小学校】



【中学校】

[学校質問紙]



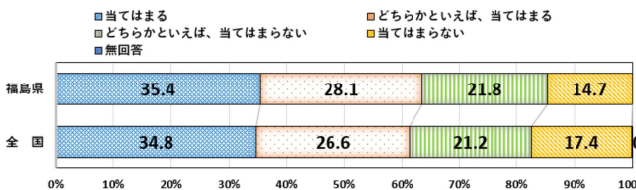
- 教職員と児童生徒のやりとりでICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」使用していると回答している割合は、小学校が36.5%（全国比-16.6ポイント）、中学校が43.0%（全国比-5.7ポイント）と、ともに全国平均を下回っている。
- 児童生徒同士のやりとりでICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」使用していると回答している割合は、小学校が27.8%（全国比-12.2ポイント）、中学校が31.7%（全国比-2.0ポイント）と、ともに全国平均を下回っている。



数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させながら、授業の充実につなげていくことが重要です

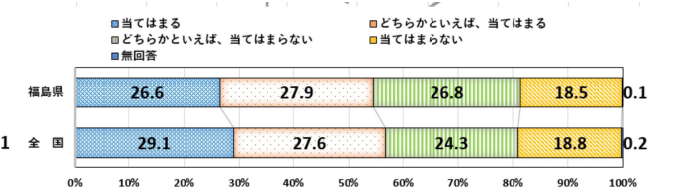
算数・数学の勉強は好きですか

【小学校】



【中学校】

[児童生徒質問紙]



- 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、小学校では63.5%（全国比+2.1ポイント）と全国平均を上回っているが、中学校では54.5%（全国比-2.2ポイント）と全国平均を下回っており、小中学校で意識の差が見られた。
- 経年変化で見ると、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、小中学校ともにここ数年は減少傾向にある。

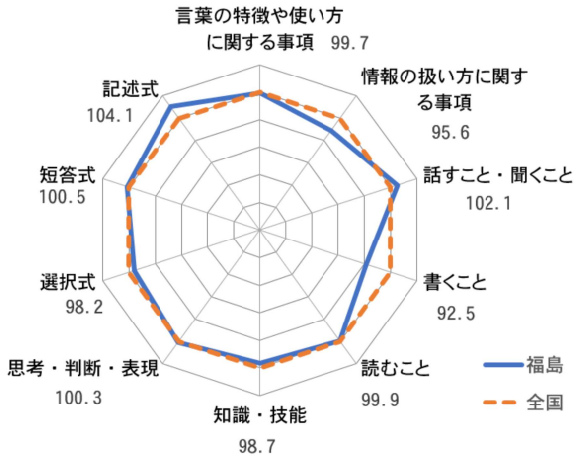
今後に向けたPoint!

- 話し合いを通じて自分の考えを深めたり、学んだことを振り返り次の学習につなげたりする児童生徒が増えており、「学びの変革推進プラン」に基づく授業改善が進んでいます。引き続き、協働的な学びや探究的な学びの場を保障し、児童生徒にとって必要な資質・能力を確実に育成していきましょう。
- よさを認め、学習を支援してくれる教師の姿を肯定的に捉える児童生徒が増えています。児童生徒の実態を丁寧に把握し、個別最適化された学びを一層充実させていきましょう。
- 教職員と児童生徒や、児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器を効果的に活用し、児童生徒の考えを集約したり、意見の交流や共有を促したりすることで、協働的な学びをさらに推進していきましょう。

3 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業

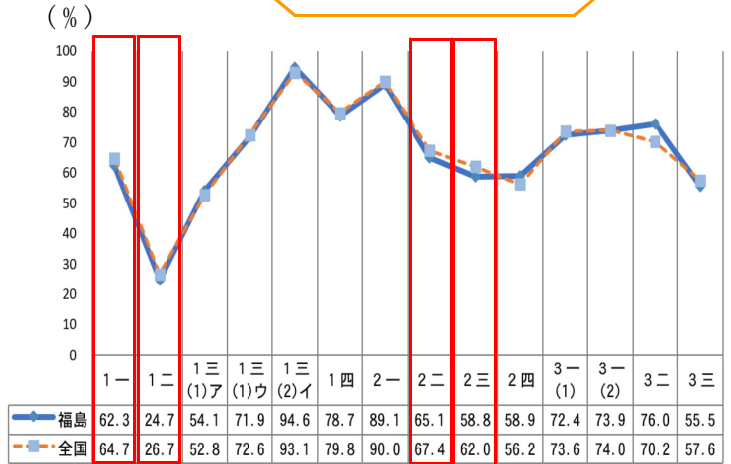
小学校国語

領域・観点・問題形式別の状況



※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

課題が見られた設問



- 1一 「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」
- 1二 「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」
- 2二 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」
- 2三 「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎〔国語1〕米作りについて解説する文章を書く〕

設問1二「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の誤答分析をすると、以下の点に課題があることが見えてきます。

《誤答分析から》

条件の1つ目または2つ目を満たしていない児童の合計は62.0%であり、図表やグラフから分かる学校の米作りの問題点及び解決方法など複数の情報を結び付けて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。

《授業スタンダードより》

多様な言語活動による「主体的・対話的で深い学び」

- わらいを達成するために、次のようなことに留意して言語活動を設定します。
 - ・ 授業のどの段階に位置付けるか。
 - ・ どのような言語活動にするか。(記録、要約、説明、論述など)
 - 言語活動は、思考力・判断力・表現力を高め、言語能力を育みます。
- ※ 読書は、語彙を豊かにするとともに、言語能力を向上させる重要な活動です。

○ 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させましょう。

- ・ 考えを共有したり比較・検討したりする場の設定
- ・ 理由や根拠を基に判断する場の設定
- ・ 目的に応じたグループ編成
- ・ 活動にふさわしい人数設定 など

目的に応じた情報を収集したり、収集した情報の中から自分の考えを相手に伝えるためにより適切な情報はどれかを検討したりする場を設けましょう。

また、複数の情報を結び付けて根拠となるような資料を意図的に提示することも大切です。

自分の考えが伝わるように事実と意見を区別して書かせるようにしましょう。その際、その区別が明瞭になるよう文末表現に着目させたり、取り上げた事実が自分の考えを支える根拠として適切なものを吟味し合える場を設けたりすることが重要です。



二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。おどの条件に合致して書きましたか。

○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。

○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。

○ 六十字以上、百字以内にとどめて書くこと。

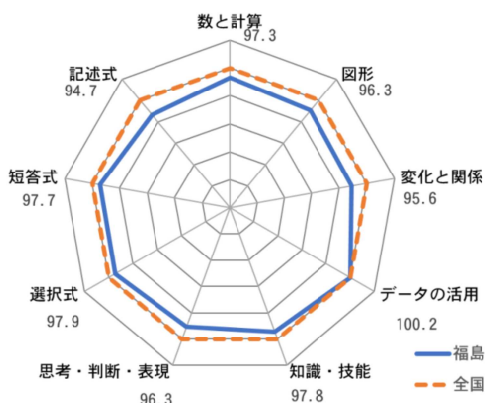
(条件)

〈授業改善のポイント〉

- 「考えの形成」に関する指導の効果を高めるために、[知識及び技能]の「(2)情報の扱い方に関する事項」と関連させ、話や文章、図表、グラフ等から情報を取り出す必要がある課題を意図的に設定しましょう。
- 図表やグラフなどが自分の考えを支える根拠となり、相手に伝わりやすくなることを子どもに実感させるとともに、学んだことの有用性を「学びに向かう力」につなげるために、教師がモデルとなる文章を提示したり、自分のよさを意識させたりする振り返りを行うようにしましょう。

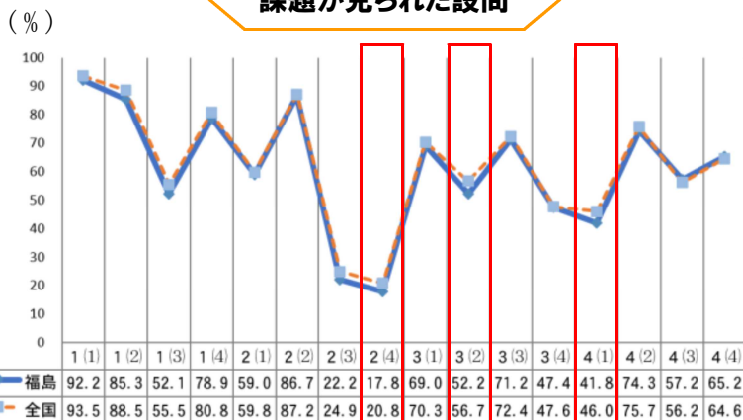
小学校算数

領域・観点・問題形式別の状況



※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

課題が見られた設問



- 2(4) 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」
- 3(2) 「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」
- 4(1) 「百分率で表された割合について理解している」

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

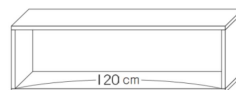
◎ [算数3] 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること (分配法則)

設問3(2)「3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する」の誤答分析をすると、以下の点に課題があります。

《誤答分析から》

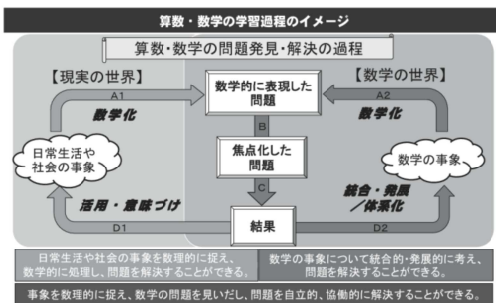
式や言葉での説明が不足し、不正解となった児童の割合は44.8%です。日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道立てて考察する力、数学的に表現する力、については問題解決する力の育成が必要だと考えられます。その際、「問題発見・解決の過程」において、子どもたちが主体的に取り組めるようにすることが大切です。

(2) けんたさんの学級では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことになりました。それぞれのファイルの厚さは、1.4 cm、1.6 cm、2 cmです。けんたさんの学級の人数は23人です。
下のようないはば120 cmのたなに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。



3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何cmですか。全部並べた長さの求め方を、式や言葉を使って書きましよう。また、答えも書きましよう。
さらに、たなにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましよう。

- 1 入れることができる。
- 2 入れることができない。



《授業スタンダードより》

- 数学的に表現する場面においては、既習事項と今後新たに獲得する学びとを関連付けられるようにすることが大切です。その際、事実、方法、理由にも着目させながら思考させることにより、「深い学び」へと結び付けていきたいものです。

教材の価値を把握する

- 主たる教材である教科書の内容の検討・吟味
- 教材の教育的価値
- 教材に内在する基礎的・基本的な学習内容
- 教材の系統性 (同一学年、他学年、他校種との関連)
- 教科等横断的な視点

「式の指導においては、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるようにする」ことが求められます。

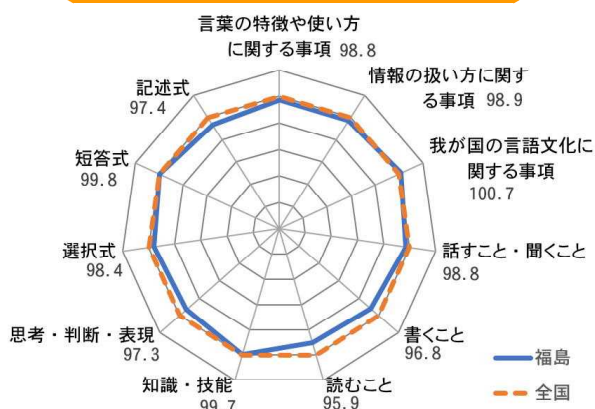


〈授業改善のポイント〉

- 場面の状況を読み取り、数量の関係を捉え、式を用いることができるようにすることが重要です。その際、式と言葉で説明したり、異なる考えを表した2つの式を比較して、式から分かることや能率的に計算することなどの観点から、それぞれの考え方のよさについて話し合ったりする活動を設けるなど、言語活動の充実を目指していきましょう。

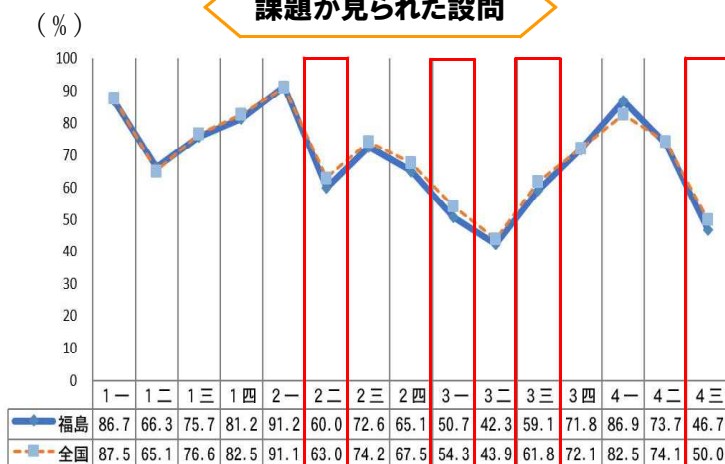
中学校国語

領域・観点・問題形式別の状況



※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

課題が見られた設問



- 2二「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」
- 3一「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」
- 3三「具体と抽象など情報と情報との関係について理解している」
- 4三「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎〔国語4〕 古典を読む（「竹取物語」）

設問4三「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」の誤答分析をすると、以下の点に課題があることが見えてきます。

《誤答分析から》

表現を取り上げて書くことができていない生徒が17.5%、無回答が22.2%でした。工夫されている点について、根拠を明確にし、叙述に基づいて考えることができなかつたと考えられます。また、観点を明確にして複数の文章を比較しながら読むことや、原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることにも課題があると考えられます。

《授業スタンダードより》

＜ペアやグループ・学級全体での話し合い＞
 思いや考えを広げ深めることができるようにするために

- 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させましょう。
 - ・ 考えを共有したり比較・検討したりする場の設定
 - ・ 理由や根拠を基に判断する場の設定
 - ・ 目的に応じたグループ編成
 - ・ 活動にふさわしい人数設定 など

学習指導要領を見ると、第1学年の〔思考力、判断力、表現力等〕における各領域に、「根拠」に関わる指導事項が示されています。改めて確認し、各領域において「根拠」を大切にされた指導を行いましょ。

古典の指導においては、必ずしも原文である必要はないので、指導する内容や生徒の実態に応じて、現代語訳や古典について解説した文章を加えるなどの工夫をしましょう。



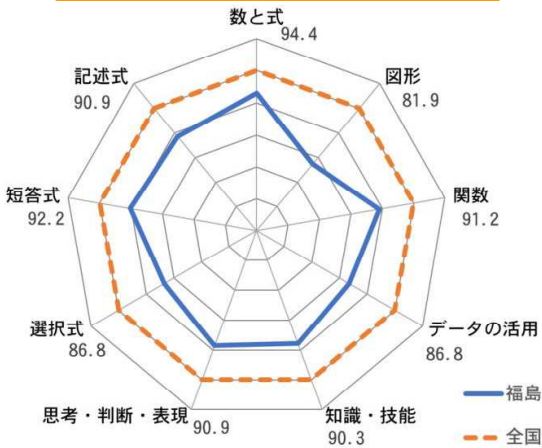
《授業改善のポイント》

- 授業者が言葉に着目し、吟味する姿勢を示すことが何よりも大切です。授業を構想する際には、生徒がどのように思考するかをイメージし、「言葉による見方・考え方」が常に働くような学習活動を設定しましょう。
- 「考えの形成」に関する指導の効果を高めるために、〔知識及び技能〕の「(2)情報の扱い方に関する事項」と関連させ、話や文章、図表、グラフ等から情報を取り出す必要がある課題を意図的に設定しましょう。
- 自分の考えを書いたり発表したりする際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げさせるようにしましょう。根拠を挙げていない場合は、授業者が「そう考えた根拠はどこですか？」と必ず問い返すことが大切です。

三 「学校図書館で見付けた『竹取物語』の一部」は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

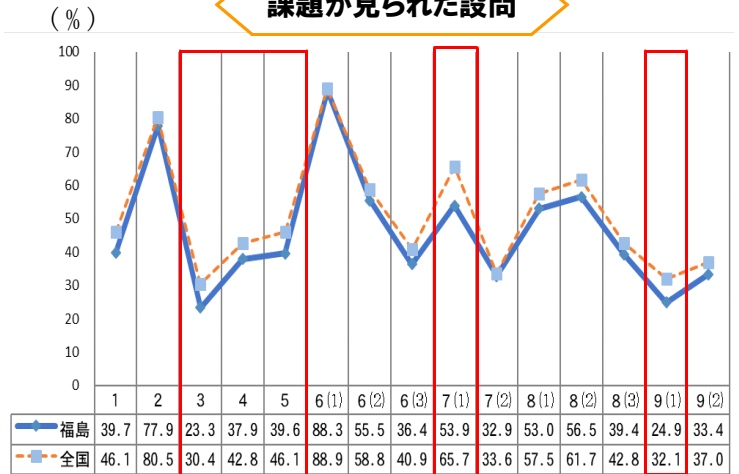
中学校数学

領域・観点・問題形式別の状況



※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

課題が見られた設問



- 3 「空間における平面が同一線上にない3点で決定されることを理解している」
- 4 「反比例の意味を理解している」
- 5 「累積度数の意味を理解している」
- 7(1) 「四分位範囲の意味を理解している」
- 9(1) 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎ 「数学3」空間図形

設問3は、空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、ア～エの中から1つ選ぶ問題です。

《誤答分析から》

- ・ 正答のエを選択した生徒は23.3%であるのに対し、ウを選択した生徒が38.8%でした。平面は3点によって1つに決まることは理解できていても、その3点が1つの直線上にある場合とない場合の区別ができていないと考えられます。
- ・ アとイを選択した生徒は合わせて36.6%でした。「平面が1つに決まる」ということが、どういうことであるか理解できていないと考えられます。

《授業スタンダードより》

- 「平面が1つに決まる場合とは、どういうことですか？」と論理的な考察を求めたり、それを説明させたりすることや、1つの平面が3点によって決まるという考え方に対して、「どんな3点の場合でもそう言えますか？」と問い返すことで、より確かな知識・技能の定着が図られると考えられます。



第1学年における作図や空間図形の指導では、単なる操作や作業だけに終始することなく、論理的に考察するとともに、考察したことを筋道立てて説明する機会を設けることが大切です。

○ 子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。

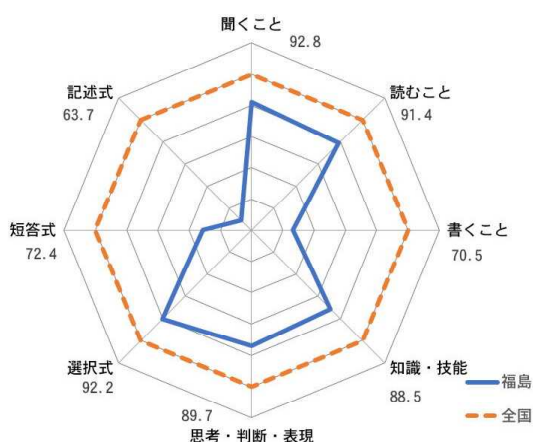
- ・ 話し合いの論点や議題の明確化
- ・ 子ども考えを引き出し、つなげる支援
- ・ 問い返しやゆさぶりなどの働きかけ
- ・ 話し合いに全員を参加させる姿勢 など

〈授業改善のポイント〉

- 振り返りの場面において、「1つの直線とその上にない1点なら、平面は1つに決まるかな？」など、様々な条件を与える発問を通して、統合的・発展的に考えを進めていくことも大切です。新たな問題の発見を生徒に促しながら、「深い学び」のある授業を目指していきましょう。

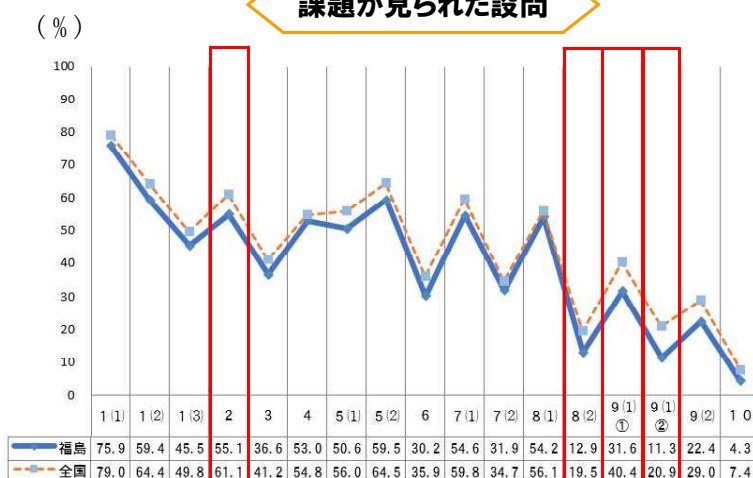
中学校英語

領域・観点・問題形式別の状況



※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

課題が見られた設問



- 2 「忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する」
- 8(2) 「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」
- 9(1)①② 「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎〔英語9〕文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く〕

設問9(1)②は、語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題です。

《誤答分析から》

② <友達同士の会話>

A : Oh, you have a new watch!

B : Yes, I got it yesterday.

A : (buy) the watch?

B : At a department store near the station.

《授業スタンダードより》

Where do you buyやWhere boughtなど、一般動詞の二人称単数過去形 (did) を用いず解答した生徒は34.6%でした。会話の流れから疑問詞whereを用いて書くことは理解しているが、時制を正しく判断することができていない、もしくは基本的な語や文法事項等を理解して一般動詞の疑問文を書くことに課題があると考えられます。

帯学習の時間などを活用して、ペアでチャットをしたりチャットで話したことを書き出したりするなどの言語活動に、継続的に取り組んでみましょう。



多様な言語活動による「主体的・対話的で深い学び」

- ねらいを達成するために、次のようなことに留意して言語活動を設定します。
 - ・ 授業のどの段階に位置付けるか。
 - ・ どのような言語活動にするか。(記録、要約、説明、論述など)
- 言語活動は、思考力・判断力・表現力等を高め、言語能力を育みます。

「ペアやグループでの話し合い」で広がり深まる思考

- 目的を明確にしたペアやグループの話し合いでは、次のようなことが期待できます。
 - ・ 他者に伝えることによる思考の整理
 - ・ 他者からの情報による新たな気付きや発想
- 自分の考えを素直に表現し、相手の考えを共感的に聞くことは、思考の広がりや深まりにつながります。

〈授業改善のポイント〉

- 疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間がかかるため、継続的な取組が必要となります。教科書本文の内容理解に関するQ&A活動だけでなく、帯学習の時間を活用して教師と生徒、または生徒同士でのQ&A活動を継続的に設定してみましょう。
- 英語の正確性を高めるためには、話したことを書いて確認させることが重要です。さらに、書いたものを生徒同士で読み合わせることで、文法的な間違いに気付いたり、友達の表現から学んだりすることもできます。生徒の書く時間には個人差があるため、活動時間を適宜確保することが必要です。授業内で一定の時間を与え、残りは家庭学習の課題にするなど工夫してみましょう。

4 ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して!



「学びの変革推進プラン」
『資質・能力を確実に育成する』3つのポイント



【ポイント1】 各種学力調査等の結果分析により、個別最適な学びを実現する

学力の伸びを把握できる「ふくしま学力調査」の結果等と合わせて詳細な分析をすることで、児童生徒一人一人や自校の課題を明らかにし、個別最適な学びの実現を目指していきましょう。また、各地区や域内において、成果や課題を共有して、実態に応じた具体的な対策を講じていくことが必要です。（「全国学力・学習状況調査」と「ふくしま学力調査」についてはP. 13をご覧ください。）

【ポイント2】 「主体的・対話的で深い学び」により、思考力、判断力、表現力等を育む

問題解決の過程で働かせた「見方・考え方」を鍛える「まとめ・振り返り」の設定

ふくしまの「授業スタンダード」を有効に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善が図られてきています。次のポイントを大切に、さらなる授業の工夫・改善に努めましょう。

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、問題解決の過程で働かせた教科特有の「見方・考え方」を児童生徒に意識させることが必要です。さらに、「何を学習したか」をまとめ、「どのように学習してきたか」を振り返るための「まとめ・振り返り」の場の設定が重要になってきます。自分の言葉でまとめる時間の確保や自己評価や相互評価を取り入れることで、充実感、達成感などの学びの手応えを感じさせ、新たな学びに目を向けることができるように、単元を見通した評価計画のもと、指導と評価の一体化の実現を目指していきます。



学びの連続性を意識した、授業と家庭学習の学習サイクルの確立

ふくしまの「家庭学習スタンダード」を有効に活用し、自己マネジメント力の育成を通して、知識及び技能等の定着が図られてきています。今後においても、次のポイントを大切に、授業と家庭での学びをつなげていきましょう。

- 福島県の児童生徒は、自ら計画を立て、主体的に家庭学習に取り組んでいます。授業と家庭学習の学習サイクルを確立することは、自己マネジメント力の育成にもつながります。学校と家庭との協力及び連携体制を構築することで、一層の効果が期待できます。
- 1人1台端末の活用を視野に入れた、宿題や課題提示の在り方を探っていきましょう。
(取組例) ・ 基礎的な内容のドリル型学習と「調べ、考え、書く」等を中心とした活用型学習のバランスを考えた課題の提示
・ 学習者用デジタル教科書やデジタル教材等の活用による、授業と家庭の学びの連続性の確立



「ふくしま活用力育成シート」の活用による授業の質的改善

ふくしま活用力育成シートは、児童生徒一人一人の「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の質的改善や校内研修の充実を目指す際の参考になるように作成されています。育成すべき資質・能力を明確にし、各教科の「見方・考え方」を働かせることができる授業の展開につなげられるよう、積極的に活用ください。

- シートの場面設定や設問は、思考力、判断力、表現力等の育成を意識して作成されています。宿題として子どもたちに配付して終わるのではなく、日々の授業や授業案作成、校内研修の際にも活用してください。
- 解説シートには学習指導要領の指導事項等が示されています。今、学習している教材で身に付けさせたい資質・能力と一致したシートを活用することで、教材を教える授業から、資質・能力を育成する授業への転換を図ることができます。
- ふくしまの「授業スタンダード」と併せて活用を図ることで、発問やコーディネート、振り返りの在り方等について具体的なイメージをもつことができます。

【ポイント3】 ICTを活用し、児童生徒に必要な資質・能力を確実に育成する

ICTの効果的な活用による学びの変革

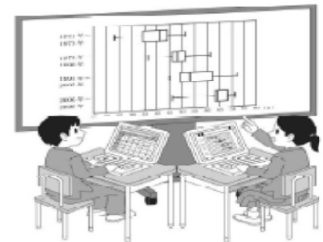
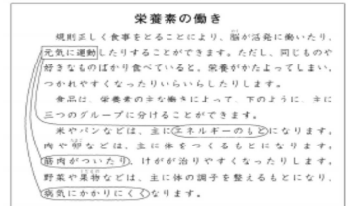
- 主体的・対話的で深い学びを実現し、児童生徒の資質・能力を育成するために、ICTを効果的に活用し、児童生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるような問題解決場面を提示することが必要不可欠となります。
情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用する経験を重ねることで、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な情報活用能力が育成されます。

全国学力・学習状況調査の設問から

具体的な端末活用場面を扱う設問はもちろんのこと、情報活用能力を問う設問が多く見られました。

- 小学校国語科より
パンフレットへの書き込みから、情報をどのように整理したかを説明する問題です。目的に応じて必要だと判断した複数の語句を図示することによって整理できるようにすることが重要です。その際、児童が知っていたり、これまでの学習で使ったりしたことがある様々な情報の整理の仕方の中から、自分に合った方法を選ぶことができるように指導することが大切です。
- 中学校数学科より
イチョウの黄葉日の傾向を読み取り、批判的に考察し判断したことを説明する問題です。日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるような指導が重要です。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切です。

【資料3】 相田さんが書き込みをしたパンフレットのページ



福島県の取り組みから

- 県教育委員会では、「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」の実践協力校のICT活用実践事例をホームページに掲載しています。各教科等の実践事例に加え、家庭学習と授業に連続性をもたせるための持ち帰り学習の実践事例も掲載しています。ぜひ御活用ください。

【中学校外国語科の実践例】

外国語科	中学校 1年	外国語科「New Horizon English Course 1 Unit9 Think Globally, Act Locally」(東京書籍)
C 協働学習 (C3) 主な学習活動 (ALTに福島の子供たちと一緒に行きたいことを尋ね、おすすめて紹介するガイドブックを作成し発表する。)		
1 本時のねらい ALTに福島の子供たちと一緒に行きたいことについて尋ね、ALTの答えに対しておすすめて紹介することができる。		
2 主に活用したICT機器・コンテンツ等 Google Jamboard 電子黒板		
3 参考にしてほしいポイント Google Jamboardを活用することにより、一人一人がまとめた付箋を基に、おすすめて紹介するガイドブックを協働して作成することができる。		
授業場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	ALTに福島の子供たちと一緒に行きたいことを尋ね、おすすめて紹介するガイドブックを作成し発表する。 (電子黒板) 協働で作成したガイドブックを電子黒板に映し、発表することで学校全体で共有する。	(Google Jamboard) 調べたことを、付箋機能を用いてまとめ、それを基におすすめてを紹介するガイドブックを協働して作成する。
タブレット		協働で作成したものを電子黒板に映し、全体で共有する。
電子黒板		会津にはどんな有名なものがあるかな、そこで何が飲めるかな？

【中学校持ち帰り学習の実践例】

社会科	中学校 1年	社会科「アジア州」
B 個別学習 (B5) 主な学習活動 (家庭) 身の回りの「MADE IN アジア」を探す。(学校) 身の回りのアジア製品の多さを数え、その理由を考える。		
1 本時のねらい 身の回りに多くのアジア製品があることに気づき、その理由を考えることができる。		
2 主に活用したICT機器・コンテンツ等 Google Classroom Google Jamboard 電子黒板		
3 参考にしてほしいポイント 生徒が授業の中で各家庭にあるアジア製品を思い出すだけでなく、各家庭で課題(身の回りのアジア製品探し)に取り組み、より多くのアジア製品の例を挙げることができる。授業では、多くの例を基にして話し合いを進めることができる。		
授業場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
(家庭)	Google Classroomに示された課題に取り組み。 「アジア各州からの主な輸入品」について調べる。 気付いたことをGoogle Jamboardの付箋機能に書いて話し合う。	(Google Classroom) 教師が課題を配信し、生徒が持ち帰っているタブレットで家庭で取り組むことができる。 (Google Jamboard) 授業で気付いたことや身の回りにアジア製品が多い理由を付箋に記し、意見を比較したり類似点を調べたりすることができる。
タブレット		身の回りにアジア製品が多い理由を記した付箋を集めたGoogle Jamboard
電子黒板	Google Classroomで配信した課題	



5 各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～



「全国学力・学習状況調査」だけでなく、本県では独自に「ふくしま学力調査」を実施しています。両学力調査の特徴について整理することにより、さらなる授業改善に結び付けていくことが期待されます。



「全国学力・学習状況調査」とは？

目的

毎年4月に実施される、文部科学省による全国調査です。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

結果の活用

- 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むこと。（実施要領から抜粋）
 - ⇒ 各教科の領域等における学習状況の把握が可能。その結果、授業改善に生かすことができる。
 - ⇒ 質問紙調査による分析が可能。その結果、学習との相関関係のある項目への支援をすることができる。



「ふくしま学力調査」とは？

概要

一人一人が「どれだけ成長しているか」がわかる調査です。

- 調査実施日 令和5年5月11日（木）～26日（金）
- 該当学年 小学校4・5・6年生／中学校1・2年生
- 調査項目 学力調査（小学校⇒国語、算数／中学校⇒国語、数学）及び質問紙調査
- 調査の視点 一人一人の学力がどれだけ伸びているか、学習した内容がどれだけ身に付いているか

特長

児童生徒の伸びる時期やスピードは様々です。しかし、一人一人が確実に成長しているはずで、「ふくしま学力調査」は、小学校4年生から中学校2年生を対象に実施することで、児童生徒一人一人の学力の伸びを把握することを目的とした調査です。

福島県教育委員会は、「ふくしま学力調査」を通して、一人一人の学力を確実に伸ばし、すべての児童生徒の夢を叶える教育を進めていきます。

【特長1】 他の児童生徒や県・市町村の平均点との比較ではなく、現在の自分の「学力のレベル」を測定し、過去の自分との比較で「学力の伸び」を実感することができます。

※ 「学力のレベル」とは、問題ごとに設定された難易度をもとに、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を示したものです。

【特長2】 学力以外の力（根気がある、やるべきことをきちんとやる、自分に自信がある等）が、どれだけ身に付いているのかを見ることができるようになります。

【特長3】 学校や教育委員会では、【特長1】【特長2】の調査結果を分析することで、学力向上に向けた授業改善や児童生徒一人一人に応じた指導・支援の充実を図ることができます。また、学力を伸ばしている効果的な取組を明らかにし、その取組を広げていくことも可能になります。

